令和8年9月17日
（三宅さん限り）

概要（msb_Ch03-005・14ページ）
お出しになる前に直しておきたいところ

9月13日にお送りいただいた「基本のスライド」（14ページ）を、1ページずつ拝見しました。先日の別紙でお伝えした分は**下の「別紙でお伝えした分」にまとめ直す**だけにして、ここには**まだお伝えしていない分**を載せています。直すのに手間がかかる順ではなく、**外に出たときに困る順**に並べました。

A　事実が二通りになっているところ（ここだけは先に）

ページ	いまの記載	こうしたい
p10・p11	**「（株）多治見中日サービスセンター」**	同じ資料の p14 では**両藤舎の屋号**として書かれています。株式会社なのか、屋号なのかで、協賛金を受け取る相手と契約の当事者が変わります。どちらかに揃えてください。
p11	協賛金 2/4（220万円）の箱が「**地域支援グループ**」	企画書 msb_Ch03-002 の p9 では、この 2/4 は**地域の課題解決グループ（まちづくりNPO・RMO）**です。「地域支援グループ」は**新聞販売店側の 1/4（110万円）**の名前なので、同じ名前が2つの箱に付いている形になっています。
p13	「行政区単位で**30社〜50社**」	8月24日に **10社＋40社＝50社** で確定した後の表現に。「行政区単位で50社（オフィシャルパートナー10社＋協賛事業者40社）」。

B　読んだ方が動けないところ（書いていない、という抜け）

ページ	いまの記載	こうしたい
全体	**「令和8年10月2日」が14ページのどこにもありません**	p6 にあるのは「令和8年4月 多治見市内でスタート」（バローainoma連携の日）だけなので、読んだ方はもう始まっていると受け取ります。サービス開始日は表紙かp6に1行。
全体	**070-4497-0111 が入っていません**	8月26日に決めた2本立て（中日新聞をお取りの方＝0572-22-3500／お取りでない方＝070-4497-0111）のうち、お取りでない方の番号が落ちています。この資料は購読者以外の方も読まれます。
p13	箇条書きの記号と改行が崩れたまま	下書きの出力がそのまま残っているように見えます。p13だけ体裁が他のページと違うので、読み手は作りかけの資料だと感じます。

C　出どころを聞かれると困るところ

ページ	いまの記載	こうしたい
p12	「市場規模**15〜20億円**」	推計の出どころが資料内にありません。金融機関や行政の方は必ず根拠をお尋ねになります。出どころを添えるか、「試算」と明記するか、落とすか。
p10	オフィシャルパートナー候補として**6社と医師会の実名**	ご了解をいただいた先だけを載せるのが安全です。まだの先は「(交渉中)」ではなくお名前ごと伏せるほうが、後でお願いに行きやすくなります。

D　誤字 (4か所)

ページ	いまの記載	正しくは
p9	見出し「**交互**扶助」	相互扶助
p7	「予算**か**無く」	予算**が**無く
p3・p12	「**シュミレーション**」	シミュレーション
p2	「センター」(ダッシュ)	センター(長音)

別紙(9月15日)でお伝えした分 — こちらも同じ資料の直しどころですので、作業の順番としてまとめておきます。

1. p4 赤字「超高齢**社**の課題解決には」=「会」の脱字(いちばん大きく、いちばん赤い一行)
2. p11 大見出し「まごころ(**ちょっこと**)サポート多治見」=「ちょこっと」
3. p11 中央に黄色いマーカー付きで「**田代新聞販売店**」(多治見地区の4店に見当たりません)
4. p12 の売上と分配(④の紹介手数料・協賛金の取り分)=別紙Aの差し替えデータ
5. p12 の人口が内部で合わない(年齢3区分の合計105,048人 vs 総人口102,978人)
6. p9「次世代キャッシュポイント」=データの扱いの整理と正面からぶつかります
7. 表紙・p14 の事業サポートの表記

この紙は三宅さんにだけお渡しするものです。資料をどなたかにお送りになるときは、この紙は外してください。
ページ番号は9月13日にいただいた14ページ版のものです。9月11日版とは3・4・11・12ページの並びが違いますので、お手元の版をご確認ください。